

2010年1月14日。任意での事情聴取の際、田代検事はこう言ったと石川議員は主張した。田代検事は否定したが、5月17日に検察審査会の起訴議決を受けて任意で再聴取を受けた際に、石川議員が隠しどりの録音が、石川議員の正当性を裏付ける根拠とされた。録音の中で、石川議員が「ここは恐ろしい組織なんだから、何するかわかんないんだぞ」って論してくれたことあったじゃないですか」と水を向けると、田代検事は「うんうん」とこたえ、「検察が石川議員を再逮捕しようとする組織として本気になったとき、まったくできない話かかっていうと、そうでもない」と脅しともとれるようなことを言っていた。

**面前でメモを破る**

裁判所はこうした心理的圧迫の結果、「4億円を故意に記載しなかった」とする調書に、石川議員は署名したとした。さらに小沢氏の指示・了承については「これぐらい書いても小沢さんは起訴にならないから」と田代検事が言ったため認められた」という石川議員の主張を合理的なものだと記している。

田代検事の上司にあたる吉田正喜・特捜部副部長(当時)に

よる石川議員への取り調べはさらに強引だ。吉田副部長は「水谷建設から小沢氏側への5千万円を受け取った」という供述を得ようとする質問に終始。否定する石川議員に対し、石川氏が別の後援会の人から金銭を受けとったことを持ち出して賄賂だと揺さぶり、「国会議員を辞職する」という調書をとった。そして、この金銭授受について「こんなのはサイドストーリーだからな」などと言って、取り調べ中に書き取ったメモを、石川議員の面前で破って見せた。



信ぶ欠つ権復  
不揺句とな  
信さげ無罪と  
へでは無政治  
相提出したも  
首案席て不明  
管案席て不明

前田元検事は、それぞれ「もう一人は認めている」と嘘を言い「まずいんじゃない」などと言つて、双方に「石川議員が大久保秘書に不記載の報告をした」という調書に署名をさせた。

5月17日の再聴取では、田代検事のこんな言動も録音されていた。

「否認すれば小沢が絶対権力者だという印象を検察審査会に与えるので、供述を維持するほうがいい」「報告・了承してません」といったら起訴議決・強制起訴の可能性が高くなる」

実際には、石川議員が一貫して報告・了承の供述を変えなかったことを理由のひとつに、2度目の起訴議決がなされ、小沢氏は強制起訴された。

裁判所は、これらをもとに、検察側は心理的圧迫と利益誘導を織り交ぜながら巧妙に誘導した」と非難した。

なぜ、特捜部はこんな強引な取り調べをしたのか。幹部のひとりでは当時の東京地検と最高検の対立が思い当たるといえる。

「陸山会事件では、複数の東京地検幹部が小沢氏本人の逮捕を強硬に主張していたが、最高検は反対していた。『悪いやつがいるのに検察組織がそんなに大事か』と東京地検幹部がなじり、

最高検幹部が『そんな強引な捜査はありえない』と応じる。当時、最高検と東京地検でそんな激論があった」といえる。

**疑獄捜査から撤退**

最高検は「政治資金規正法違反は形式犯なので、悪質性を証明する必要がある」として「4億円の原資が建設会社からの違法献金でなければ立件させない」とハードルを課した。「その結果、都合がいい供述を引き出そうと、石川議員らに強引な調べをする」という事態になったという。結局、東京地裁に「石川議員の取り調べの録音がなければ水掛け論に終始していた可能性すらある」と石川議員の「隠しどりの功績」を認められるという、検察にとつては「最悪の結末」に至った。

それだけではない。7月8日、笠間治雄・検事総長は記者会見で、「犯罪構成要件があつて処罰価値があるからやるという原点到る」と述べた上で、「今後は国税や警察などと共同捜査する経済財政事件に軸足を移し、(政界などの) 独自捜査優先は控える」とした。

戦後の闇市摘発から始まりながら、ロッキード事件、リクルート事件などで、首相にさえ迫る力をもった特捜検察は、法と証拠を曲げたことで自滅した。特捜部の名称を財政経済部にすることも検討したが、かろうじて名前は残すことにしたという。「独自捜査をやめたわけではない」と笠間総長は言うが、特捜部が国民の信頼を得る政治腐敗に再び切り込む日は来るのだろうか。

編纂部 三橋麻子

# 悪党

## 小沢一郎に仕えて

元小沢 郎秘書 衆議院議員  
**石川知裕** 著

佐藤優氏絶賛  
「この本は危ない。誰も書けなかった小沢一郎がいる」

小沢一郎×石川知裕対談を収録  
絶賛発売中 定価1600円

悪党 小沢一郎に仕えて

破門覚悟の告白 石川知裕

小沢一郎「おまえ、よく覚えてん」

ASAHI お求めは書店、コンビニ、ASA(朝日新聞販売所)、アエラネット <http://www.aera-net.jp> でどうぞ。